

大分大学派遣留学生支援制度（短期研修型）実施報告 （分子病理学講座）

医学部では、4年次の4月から6月にかけて研究室配属が実施され、研究の実際を学びました。岡田将人さんはタイのチュロンコーン大学の病理学教室において「胃癌に発現するPD-L1」について研究を行いました。

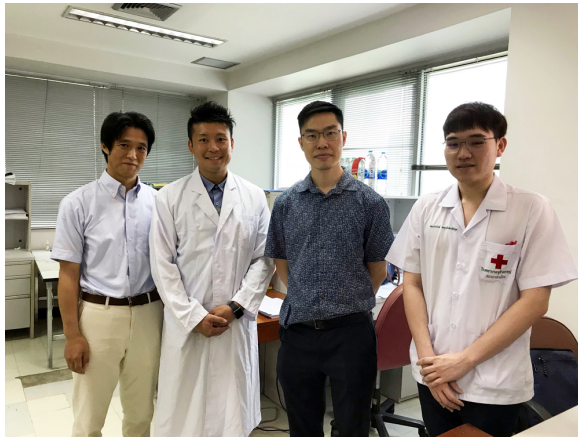
医学科4年次生 岡田将人さんの感想

最初にチュロンコーン大学病院の大きさに驚きました。広大な敷地内にはたくさんの病院棟があり学生、先生の宿泊する寮も完備されていました。病院内はとても清潔で最新の設備を備えているように伺えました。また、目の前にはバンコクー広大な公園であるルンピニー公園があり、毎朝ランニングで汗を流すことができました。

現地の先生、学生と交流することで気づいたことは、タイの医学生は医学用語を英語で勉強するらしく、みんな英語が堪能であったので英語の勉強にもなりました。私自身将来的に海外に出ることに興味を持っているためとても貴重な経験となり、刺激も受けました。また、タイの研究室の雰囲気はとても自由度が高く、みなさんととても忙しそうにしていたが笑い話をしたりお菓子をつまみながら仕事をしたりしてとても楽しそうでした。

最後になりましたが、今回分子病理学講座から初のタイ留学ということでこの留学の実現にご尽力いただいた内田智久先生、受け入れ先のチュロンコーン大学病理学教室教授の Naruemon 教授、指導いただいた Anapad 先生、Pong 先生にはとても感謝しております。

このように、大分大学派遣留学生支援制度により、充実した短期留学を終えることができました。岡田さんがこれから医療者として生きていく上で、有意義な経験になったと確信しています。



左から内田先生（大分大学医学部分子病理学講座）、岡田さん、Anapad 先生（チュロンコーン大学病理学教室）、Pong 先生（レジデント）



大学病院敷地内にある大学の名前の由来となったラマ5世（チュロンコーン王）の銅像